

2007年 20号



こうじん

題字 理事長 北川 宏

発行元 医療法人社団 宏仁会小川病院

〒355-0317 埼玉県比企郡小川町原川205
電話 0493-73-2750 FAX 0493-72-5192

発行者

理事長 北川 宏

発行日

平成19年10月18日

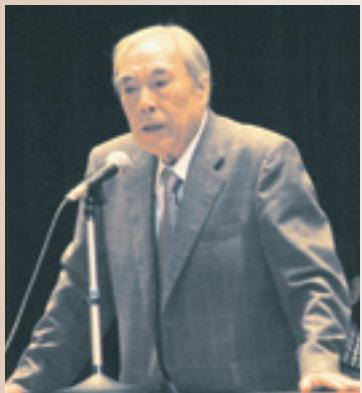


パッキンガム宮殿の騎乗兵 2007.6. in London
吉田 晓子 撮影

目次

第7回 3施設合同研修会	1 ~ 4
医師就任挨拶 (山田裕一院長・石井 栄医師)	5
第52回 日本透析医学会出席感想文	6
宏仁会『歩こう会』	7 ~ 8
新装置導入 (血圧、脈派検査装置「form」の紹介)	9
人事往来	10 ~ 11
編集後記	11

第7回 宏仁会研修会 および 公開市民講座開催される



開会挨拶をする理事長



‘特別講演’ 鈴木 洋通 先生



‘公開市民講座特別講演’ 小川 宏氏



『第7回 宏仁会合同研修会・公開市民講座』次 第

日時：平成19年9月9日（日曜日） 会場：国立女性会館 講堂

午前の部：合同研修会（10：30～12：00）

司会 徳竹 勇（宏仁会小川病院事務長）

昼食・休憩

1) 開会挨拶

医療法人社団 宏仁会小川病院 理事長 北川 宏

2) 永年表彰（14名）

30年表彰（3名） 25年表彰（1名）
20年表彰（2名） 10年表彰（8名）

3) 永年表彰受賞者代表挨拶

田島包子様（東松山宏仁クリニック）

4) 患者様代表のお話

白石英雄様（宏仁会小川病院）

5) 特別講演 座長 吉田 哲（宏仁会小川病院院長）

講師 埼玉医科大学 教授 鈴木 洋通先生
演題 「いきいき透析ライフ」

午後の部：公開市民講座（13：30～14：30）

司会 徳竹 勇（宏仁会小川病院事務長）

1) 開会挨拶

医療法人社団 宏仁会小川病院 理事長 北川 宏

2) 公開市民講座特別講演

講師 アナウンサー 小川 宏氏
演題 いきいき人生設計～うつ病を乗り越えて～
「病気は生活上の苦しみであって
人生の挫折ではない」

「第7回 宏仁会合同研修会・公開市民講座」開催にあたり

宏仁会小川病院 事務長 徳竹 勇

今年で7回目の合同研修会・公開市民講座が9月9日（日曜日）国立女性教育会館講堂で、午前の部を「合同研修会」午後の部を「公開市民講座」と2部に分けて開催された。今年多くの皆さまから会場ロビーに展示する素晴らしい作品が届き、前日総ての準備を済ませ当日を迎えることとなった。

北川宏理事長の開会挨拶に始まり、長年に亘り透析をされながら社会復帰をされておられる透析暦10年、20年、25年、30年の永年表彰で総勢14名の皆様が受賞されました。続いて受賞者を代表し島田包子さまより心のこもった温かいご挨拶があり、「患者さま代表のお話」へと続き、白石英雄さまより検診で糖尿病が見つかりその後の身体面、精神面の変化とそれに続く心の葛藤のお話が流れるように伝わり、会場の視線、空気が白石様に注がれたという印象を強く感じ心に残ったお話をあった。

研修会最後の「特別講演」は埼玉医科大学教授鈴木洋通先生の「いきいき透析ライフ」と題し、日常生活の中で体の関節運動を無理のない程度で続けることの大切さ、特に全体重を支える膝の屈折運動は最も大切であること、爪は切るのではなくヤスリで磨くことで

誤って傷をつけた所から入るばい菌からの心配が除かれること、燐は5.5以下に抑えること、また、睡眠に入る前の環境が良い睡眠に繋がる、など健康であるための秘訣を教えられ、これから続けたいと一念発起しているところである。

午後の「公開市民講座」には特別講師としてアナウンサー小川宏氏をお迎えし、いきいき人生設計～うつ病を乗り越えて～「病気は生活上の苦しみであって人生の挫折ではない」をテーマに講演され、人は健康関係と人間関係に关心が集中している、この二つは人生にとって難しい課題である。夢がかなうには…。睡眠は神がくれた最高の贈り物である。また、うつ病を体験した経験から命の大切さ等々年齢を感じさせない素晴らしい話し振りと共に、ユーモア溢れる仕草に会場が大いに盛り上がり、時間が短く感じられた公開市民講座であった。会場には凡そ550名を越える皆さまが参加され盛況のうちに終了できたことは、この上ない喜びであった。





患者様代表挨拶

宏仁会小川病院 白石英雄様

只今紹介いただきました白石英雄でございます。当年とて83歳、いさかぼけて参りましたので、お話を要領良くできません。聞き上手な皆さんですから、うまくご解釈戴くようお願い申し上げます。



私は透析を始めましてまだ7ヶ月で御座います。透析がどういうものか始めは解りませんでしたが、先生を始め看護婦さんの親切なご指導により、今は沈痛な思いをしながらも安心して、宏仁会小川病院で透析治療を受けております。

私は昭和56年57歳の時、職場での健康管理計画にもとづき人間ドックでの検診をうけました。数日後検診結果の説明がありました。当時の私は健康そのものだと思っておりましたので、先生から異常なしの声があると期待していましたところ、『貴方は糖尿病です、空腹時の血糖値は254、負荷1時間値368、2時間後346です。このまま放置しておくと命に関わります。すぐ入院しなさい』と勧められました。大きなショックを抱えたまま翌日小川日赤病院に入院いたしました。驚いたのは食事の制限でした。先生から糖尿に関する知識や治療、生活指導をうけるうちに血糖値も下がり、20日間で退院を許可されました。退院後職場に戻り、糖尿病を意識しながら10年間勤め68歳で退職しました。このころ、右足に痺れと歩行に疲れを感じる様になりました。原因は足の動脈閉塞症だったので。血管内にステントを挿入する手術をおこない軽快に歩くことを取り戻しました。しかし、糖尿病は再び悪化してまいりましたので、日赤病院に通院治療することにしました。血糖のコントロールは一進一退の状態を続けていますので小安定期しているのかな、他に別段これという自覚症状もありませんので、糖尿病が原因の三大合併症のいずれも避けられるだろうと思っていましたが、

すでにこの時には腎臓は侵されていたのです。

糖尿病腎症の病期は大きく分けて5段階に分類されるそうです。第1期は尿タンパクが正常である。第2期は微量のアルブミン尿、第3期は持続性タンパク尿1g/日以上、第4期は持続性タンパク尿、クリアチニンの上昇、第5期透析療法に分類されるそうです。私は糖尿病と診断されて約20年目77歳時は、すでに病期は第3期に及んでいたんでしょうが、血糖値ばかりにこだわり、腎症に関しては無関心同様でした。ところが昨年3月頃から足のむくみ、痺れ、腹水の貯留が始まりました。この状態になりました時、かなり重症であることを感じました。同時に日赤の担当の先生からは1日も早く入院するようすすめられ、毛呂病院腎臓センターを紹介していただき、本年正月六日入院し治療をうけましたが、時すでに遅く悪化を食い止める策はなく人工透析を導入する事になり、この宏仁会小川病院に移り院長先生をはじめ看護師さんの皆さんの親切で暖かい雰囲気のなかで透析治療を今も尚行い、お陰様で足のむくみも腹水もとれまして有り難く思っております。

先日、理事長先生の診察の折り、貴方が80歳を過ぎるまで透析をしなかったことは大変な努力だったんだよ、と励まされました。本当にそうだったのかなあとと思うと透析人生も本気でやろうと心に刻みました。





永年表彰者代表挨拶

東松山宏仁クリニック 田島包子様

永年表彰者を代表致しまして一言お礼をのべさせて頂きます。20年、30年の方もいらっしゃいますが、私にとってもあつという間の10年でした。



慢性腎炎から透析への移行ということで、ある程度の覚悟は出来ておりましたが現実となると大変なショックでした。しかしながら、数年前にこの会場で行われた研修会で講演を頂きました先生の一言で救われました。『皆さんには透析患者ではなく透析者で通常に近い生活が送れる』というお話をしました。以来、このお言葉を自分自身に言い聞かせながら日常生活を送ってまいりました。この6月にはハワイ旅行に行くことも出来ました。このように健常者に近い生活が送れるのも、院長先生をはじめとする職員の皆様の献身的な介護を頂いておりますお陰と思い厚く感謝を申し上げます。これからも体調の管理を第一に考えて頑張っていきたいと思います。

今後とも関係の皆様のご指導をお願い致しまして、お礼の挨拶にかえさせて頂きます。



就任挨拶

宏仁クリニック院長に就任して

宏仁会高坂医院院長 山田 裕一

この度、宏仁クリニックの院長に就任いたしました。

私は医師になってから16年間、埼玉医科大学の第二内科および循環器内科で主に心臓疾患の診療を行ってきました。何で心臓の医者が宏仁会にと思われる方も多いと思われますが、実は、私と宏仁会の付き合いは長く、医師1年目の終わり頃、平成4年からお世話になっており、私の医師のキャリア＝宏仁会での勤務となっています。

私は、前院長の富田先生の診療体制を引き継ぎ、さらに宏仁クリニック、宏仁会高坂医院を日本で一番（まずは高坂で一番）満足度の高いクリニックにしようとっています。その満足度には2つあります。

一つは皆さんが良く知っている患者満足度です。患者満足度を高めるというと、患者さんに媚びるようなイメージがあるかもしれません、質の高い医療を、できるだけ速いスピードで提供できることを目指したいと思います。外来では受付から診療、検査、診断、投薬にいたる過程を出来るだけスムーズにし、可能な限り外来で早期診断早期治療を行い、必要があればすぐに専門医へ紹介するという体制をとりたいと思います。全ての疾患を治療することは出来ないにしても、

『あのクリニックへ行けば、どうにかなる』と言われるようなクリニックを目指します。透析センターでは、出来るだけ患者さんと対話をし、患者さんの協力のもと、患者さんと一緒にになって的確な治療を行っていきます。職員の皆さんも今の自分の行動が、患者満足度をあげることができているか、宏仁会を日本で一番にすることができるか、を考えて勤務していただけたらと思います。

もう一つの満足度は、働いているみなさん職員の満足度です。宏仁会に勤務してよかったですと思えるような環境、機会を作りたいと思います（仕事が楽になるとという意味ではありません^~）。できるだけ無駄な仕事は省略するようにし、そのための改善案はどんどん受け入れていきます。職員の満足度が上昇し、働き甲斐のある職場になれば、自然と患者満足度も上昇すると言われています。



これまで同様、透析医療を中心に、さらに地域医療に貢献し、職員の満足度も高められるよう勤めていきたいと思いますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

東松山宏仁クリニック医師に就任して

東松山宏仁クリニック 石井 栄

このたび、私、石井 栄は8月より吉川先生の下、東松山宏仁クリニックに常勤医師として勤めさせて頂くことになりました。昭和61年に国家試験で医師免許を取得してからの22年間の内、東松山市立市民病院在職中の15年間の長期に渡り、透析の患者様を受け入れていただきました施設として宏仁会の諸先生・スタッフの皆様には大変お世話になりました。この場をお借りして、深くお礼申し上げます。



今回、皆様もご承知のとおり東松山で外来診療を始めさせていただきました。その際、北川理事長・常務・その他大勢の皆様のお力添えで外来診察室の改装、スタッフの補充などを短期間で整えていただきまして誠に有難うございました。

現在のところはまだ、市民病院で拝見していた患者様だけではありますが、その既知の患者様が予想以上に快く、多数自分の外来に訪れていただけている状況は、大変有り難く思うと同時に、当地で新たに責任を持って外来診療を行っていくのだと思うと、とても身の引き締まる気持ちでいっぱいです。

10月には、高坂の宏仁クリニックが移転・開業するとお聞きしておりますが、皆様方の一層のお力添えなくしては、東松山宏仁クリニック、並びに、宏仁会全体の新たな確かな成長・発展はありえないと考えております。

今後共、関係する皆様のさらなるご支援とご協力をなにとぞ、宜しくお願い申し上げます。

日本透析医学会にて

日本透析医学会に参加して

東松山宏仁クリニック 佐藤 恵美

今回、私は6月15日から6月17日まで大阪で行われた、日本透析医学会に参加させていただきました。梅雨に入ったにもかかわらず天気にめぐまれ、大阪は真夏のような暑さでした。学会には全国から医師や看護師、技士などさまざまな職種の人たちが集まります。発表もいろいろな意見があり、とても参考になりました。

また、学会は知り合いとも出会える場所です。友人たちと意見を交わすこともとても勉強になることだと思いました。友人のうちの1人にボタンホール穿刺について「とてもすばらしい」ということを聞かされました。今までの常識とはまったく逆のことでも積極的に取り入れ、それを評価していくことも、透析技術の向上において、とても重要なことだと思いました。

学会でいろいろな発表を見ることはとてもいい勉強になるし、また自分にとってもいい刺激になりました。これからも学会に積極的に参加していきたいと思いました。

道頓堀のタコヤキはとてもおいしかったので、また大阪に行きたいです。



第52回 日本透析医学会学術集会・総会に出席して

宏仁会小川病院 市川 真弓

6月15日から17日までの3日間、第52回日本透析医学会が大阪国際会議場とリーガロイヤルホテルで開催されました。

初日行った展示会場では各企業のブースが並んでいて、その中には医療用食品のサンプルやカタログなどが展示されているブースがありゆっくり見ていましたが、大勢の人で混雑している上、会場がいくつかに分かれている移動しなければならず落ち着いて見ることが出来ませんでした。2日目と3日目の午前中には栄養関係のワークショップと一般講演を聴きました。長期及び高齢の患者さんの低栄養が問題になっているためか、発表も「栄養状態を把握するための調査法」「栄養状態を良好に保つために指標を用いた評価法」「ゼリーを使った栄養改善効果」など低栄養を改善するための内容のことが多く取り上げられていました。他にもリン、塩分についてのポスター発表などがあり、どれも興味深い内容でとても勉強になりました。学会に参加するのは初めてだったので少し不安でしたが、たくさんの方の講演を聴くことが出来てとても刺激になりました。学会で学んだ事を今後の仕事に活かしていけたら良いと思います。

また、大阪は初めて訪れる所だったので楽しみにしていましたが、15日の夜に出掛けた道頓堀では戒橋やグリコの看板は工事中だったので見ることができずとても残念でした。また機会があれば行ってみたいと思います。



宏仁会“歩こう会”

■2007年5月20日（八丁湖）

■2007年7月1日（埼玉伝統工芸会館付近）

宏仁会小川病院 菊地和彦

月日が経つのは早いもので、宏仁会歩こう会が発足し、3年目を迎えております。

私が、歩こう会でいつも感じることは、私の知らない昔の透析や、その苦労話などを聞いたり、また透析には関係のない話に花を咲かせたり、透析室では中々出来ないコミュニケーションを深められることです。歩くというとても簡単な事ですが、それを通じての「人と人との触れ合い」を大切にし、これからも出来る限り続けて行けたらと思います。



歩こう会に参加して

宏仁クリニック 白石克夫

私が初めて歩こう会に参加したのは2005年(多分そうだと思う)のスリーデーマーチです。もっとも、自分は最初、菊地さんに誘ってもらったとき、宏仁クリニックだけの「ちょっとした散歩程度のものかなー」と思い、簡単に快諾してしまったのですが。それならば、「最近身体もなまっているし、ぜんぜん身体を動かしていないし、少しぐらい歩くのは身体にいいかなー」と、軽い気持ちで参加しました。

ところが、小川からバスで集合場所の東松山市役所に着くと「何だよ、これは?」と思うほど人がいて、とんでもなくびっくりしました。まるで運動会のようです。「そうか、これは毎年東松山で開催している歩け歩け世界大会なんだ」と分かりました。実は、10年以上前からこの歩け歩け大会は知っていましたが、仕事をしているとき、ぞろぞろと、蟻の

行列のようにきりがなくて、本当邪魔になって困っていたことがあるのですが、いざ、自分が参加してみると本当に楽しいものです。私が参加したのは、5kmコースですが、ゆっくり、ゆっくりのペースで疲れもそんなに感じないで済みました。それと、ところどころで休憩場所みたいなのがあり、お茶とか、パンとか配っていて面白かったです。

一応歩き終わると、売店が縁日のように、ずらーっと並んでいて、つい、焼き鳥と、生ビールを飲んでしまいました。いやあ旨かった。やっぱり程よい疲れは、身体にいいのかなーと思いました。それから何度も参加していますが、やっぱり自分のペースで歩くのは、本当に楽しいと思います。

これからも、機会があれば、どんどん参加したいと思っています。スタッフの方、菊地さん、大変でしょうがこれからもよろしくお願ひいたします。



血圧、脈派検査装置「form」導入される

[血管年齢、動脈硬化度を測定しませんか]

東松山宏仁クリニック 新井 洋一

昨年6月より足の観察を開始し、ベッドサイドの自動血圧計にて四肢血圧を測定しABIを求めていたことは勉強会で発表しましたが、今年の6月より血圧脈派検査装置「form」が入り、当院でもこれまでの足の観察に加え「form」を用いてABIの算出を行うようになりました。

動脈硬化症を基盤として比較的太い下肢動脈が狭窄、閉塞をきたすことによって発症するいわゆる閉塞性動脈硬化症（ASO）は透析患者では頻度の高い足病変です。特に糖尿病透析患者は下肢動脈硬化症の合併頻度が高く、太い動脈から抹消に至るまで連続的に狭窄をきたすものが多いといわれています。ASOによる足壊疽を予防するためには足の観察、ABI（足関節／上腕血圧比）を定期的に測定して評価し、経過観察をしていくことが必要となります。

「form」の測定原理はオシロメトリック法を使用し、心臓の収縮によって生ずる動脈の拍動をカフ内圧としてとらえ血圧測定をします。下肢の動脈の狭窄にはABI値、動脈壁硬化にはPWV値の測定が非侵襲的な

検査として用いられています。

ABIは上肢の収縮期血圧に対する下肢血圧で表され、ASOの客観的評価として一般的に用いられています。0.9～1.3が正常とされ、0.9以下はASOの疑いがあります。



動脈硬化による下肢の血管の狭窄が進んでいることを表します。PWV検査とは腕から足首までの脈波の伝搬速度です。この値が大きいほど血管壁が硬くなっていることを表します。PWV値は年齢とともに増加します。測定方法は両手、両足にカフを巻きつけます。電極を両手首に取り付け、心音センサーを胸部に取り付けます。患者情報を入力し測定開始となります。四肢四箇所の血圧を同時に測定することができ、短時間で検査が済むので患者への負担も最小限に抑えられるようです。また、測定結果を保存しておくことができ、過去のデータとの比較も容易できます。

以上のように操作性が良いということから、今後は透析医療、外来、各種健診と様々な領域での使用も期待できるかと思われます。



血圧、脈派検査装置「form」



耳を澄ませてみませんか

ふと見上げた空や街路樹に降りそそぐ日差しの中にも秋を感じる頃となりました。残したい日本の音風景100選（環境省選定）の中に埼玉県では「川越の時の鐘」と「荒川・押切の虫の声」のそれ、それ2つが選ばれています。これらは幸いにも、病院からそう遠くないところにあります。機会がありましたら、一度足を運んでみては如何でしょうか。但し、荒川・押切の方は虫刺されにご用心下さい。



荒川・押切



川越・時の鐘

編集後記

宏仁会小川病院も昨年創立25周年を迎え、私が当初入職した頃に比べると宏仁会の規模、スタッフの数共に大きくなり、その間多くのスタッフの出入りがあり、当初の頃の顔ぶれとは違いすっかり様変わりした気がします。

そして先日創立以来勤務されていた近重元看護師顧問が25年間の宏仁会勤務を無事終えられました。前回号で近重元看護師顧問の定年後の現在の近況を読み私自身の定年後は、どの様な心境になるのかといろいろ考えさせられました。

さて広報委員として微力ながら足手纏いにならない様に、新メンバーの特徴をだせれば良いと思います。

宏仁クリニック K・Y